

# Weekly Report



## 名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日13:00～14:00  
 例会場 ANAクラウンプラザ  
 グランコートホテル名古屋  
 承認 2013年6月18日

会長 菊地富士子  
 幹事 山田智博  
 公共イメージ  
 向上 藤谷 猛



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～2022年度名古屋アイリスRCのテーマ

ロータリーの輪を広げ、共に奉仕しよう。  
 ～心に豊かさを～

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

### 第373回 例会

2021年8月4日 13:00～

- 司 会 生田瀬津子 例会・出席・親睦委員
- 斉 唱 君が代・奉仕の理想
- 出席報告 出席者数 15名 / 27名  
出席率 55.55%

#### ニコボックス

- 菊地富士子 会長  
安井ロータリー財団委員長、本日の卓話を楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。
- 安井忠 ロータリー財団委員長  
本日は卓話をさせていただきます。その折、藤谷君と相京君にお世話になります。
- 荒山久美 米山奨学委員長  
昨日、8/3 で会社が63周年を迎えました。愛犬も8/3 生まれで12歳になりました。8/13 は私の誕生日ですが、お盆の仕度などでお祝いは無しです。(笑)
- 綿貫達雄 会員増強委員  
15日で 85 歳になります。前会員沖さんの母親から 84 歳まで生存できることは保証されていたのですが、どうなります事か....。
- 深見和久 例会運営・出席親睦委員長  
酷暑の日が続きますが、皆様体調は如何でしょうか？先日、知人にワクチン接種が終わったら、会食に行こうと誘ったらワクチンは打たない社員にも勧めていないと言っておられました。色々な考えがありますよね。本日は安井会長の卓話、快諾ありがとうございました！

#### 8月度 誕生日お祝い

13日 荒山久美さん      15日 綿貫達雄さん  
 19日 藤谷 猛さん      28日 野田陽子さん

#### 会長挨拶

ボクシングの入江瀬奈選手の笑顔は、テレビを見ているこちら側でも同じくらいの笑顔にさせます。初めてのうれし涙を経験したと、笑顔で話されました。オリンピック選手は大会のプレイ中に成長するという方がありますが、あの並外れたプレッシャーの中で最高の活躍ができる選手の皆さんの今後のご活躍が本当に楽しみです。



今日はロータリーの原点に返ってお話します。ロータリーは、一人のアメリカ人のビジョンによって始まりました。その人の名は、ポール・ハリス。1905年2月23日。シカゴで弁護士として働いていたハリスが、世界初のシカゴ・ロータリークラブを設立しました。さまざまな分野の職業人が集ま

って知恵を寄せ合い、生涯にわたる友情を培うことできる場をつくるのが、ハリスの夢でした。設立以来、徐々に人道的奉仕にも活動を広げ、今ではさまざまな職業や文化をもつロータリー会員が、さまざまな課題を解決するための活動や国際的な取り組みを行っています。その活動の分野は平和の推進、疾病との闘い、水と衛生、教育の支援などです。また新型コロナウイルス感染拡大、地球温暖化という問題もおきております。ロータリーの活動は世界で山積みになっている問題を単なる傍観者ではなく、自ら行動する責任があると考えています。ロータリーが私たちにとって何を意味するにせよ、世界は、その活動成果によってロータリーを知るのです。私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。

ロータリーでは、高潔性と高い倫理を重視しています。その中でロータリアンによって生みだされたのが、「四つのテスト」と「ロータリアンの行動規範」の2つであります。職場や生活のあらゆる場面で倫理的行動を実践するための指針となっています。

今日はその四つのテストを確認しましょう。「四つのテスト」は、1932年、シカゴ・ロータリークラブ会員で、1954-55年度に国際ロータリー会長を務めたハーバート J. テイラーにより発案されました。倒産寸前の会社を建て直す役目を担ったテイラーは、仕事における全側面において従うべき倫理的指針として「四つのテスト」を創り、このシンプルな哲学のおかげでこの会社は倒産を免れました。その後、1934年に国際ロータリーで採用されて以来、「四つのテスト」はロータリアンが倫理的行動を判するための尺度として用いられてきました。このテストは、多くの言語に翻訳され、世界中でロータリアンにより推進されています。

四つのテスト(The Four-Way Test)は次の通りです。言行はこれに照らしてから(Of the things we think, say or do)

1. Is it the truth ?

- 2.Is it fair to all concerned ?  
 3.Will it build goodwill and better friendship ?  
 4.Will it be beneficial to all concerned ?  
 以上でございます。

## 卓 話

卓話者:安井 忠 ローターリー財団委員長



大変、暑い日が続いておりますが、夏らしいと言えば夏らしいですが、もう少し涼しくても良いと思います。8月15日、終戦を迎え戦後70年となりました。8月1日の新聞に戦争にまつわる記事の中で満州事変の侵略の記事が出ていました。満州事変(1931年)以後、大陸への侵略を拡大し無謀な戦争で多くの被害を与え、そして1938年日本軍は中国重慶に4年半に渡り空から爆撃を加え1万人以上の中国人を殺しています。

安倍前首相が戦後70年談話の作成の為に設けた私的諮問機関『21世紀構想懇談会』の座長を務める西室泰三日本郵政社長は首相に報告書を手渡しました。

報告書は『1931年の満州事変以後、大陸への侵略を拡大し無謀な戦争でアジアを中心とする諸国に多くの被害を与えた』と明記し満州事変以後の大陸進出が問題だと認識を示し焦点となる歴史認識をめぐっては、まず植民地支配について欧米列強の植民地支配が世界を覆う中で、日本も台湾を植民地にしたと指摘しました。日韓併合に関しては『韓国との和解』の項目の中で言及しているものの歴史認識に関する項目では直接触れていない。

そのうえで先の大戦に至る歴史認識について満州事変以降の侵略は『第一次大戦後の民族自決戦争違法化、民主化、経済的発展主義という流れから逸脱して世界の勢力を見失った』と国際的な潮流から外れた行為だとして問題視した。先の大戦には『特に中国では広範な地域で多数の犠牲者を出すことになった』、『植民地についても 民族自決の大勢に逆行し 特に1930年後半から 植民地支配が過酷(かこく)化した』と言及。『1930年代以後の日本の政府 軍の指揮者の責任は誠に重いと言わざるを得ない』と強調した。何故1938年、昭和13年のお話しをしたかと申しますと・・・。

昭和13年2月8日旧満州・現中国瀋陽の日本国赤十字病院で一人の男の子が生まれました。父は安井金治・母は、はつ子。その子の名前は安井 忠。

父と母は、いとこ同士の結婚であり満州国へ駆け落ちをした様であります。そして満州飛行機で働き中国人労働者への指揮監督をしていたそうで有ります。母は身体が弱く毎日中国人が家に来てくれて、私は育てられていました。

1945年(昭和20年)8月。ロシア軍が対日参戦して満州に侵攻すると、約六万人の満州在住日本人が朝鮮に逃れロシア軍に封鎖された北緯38度線に阻まれ北朝鮮にとどまらざるを得なくなった。満州からの人々の大半は、一家の稼ぎ手を満州に残した女性と子供で

貧困はやがて栄養失調と疾病を招き北朝鮮北部に住んでいた人々と並んで満州からの避難民は北朝鮮における最大の犠牲者となりました。

終戦の日から2日目、8月17日に飛行場にロシア軍が色々な色の落下傘で下りてくるのをまるで花火を見ている様な気持ちで眺めておりました。昭和20年8月に入りますと飛行場の格納庫に爆弾が、雨あられの様に降り私達の住んでいる社宅では、どここの棟の誰々さんが亡くなったと言う情報が毎日の様に入り、やがて社宅に亡くなった人々が戸板に乗せられて運ばれて来るのを見て私の父はどうなるのだろうと子供心に思ったものです。空襲が始まると母と妹との3人で前もって分かっている時は社宅の防空壕へ、急に空襲になった時は家の押入れの中で布団をかぶって隠れていた事を思い出します。

8月15日になりました。私は夏休みなのに何故か学校へ行かされ、そこで先生から直ぐに家に帰る様に言われ社宅に戻りましたら母が涙を流しているの、どうしたの?と聞きますと日本が戦争に負けたと言う事でした。何も分からないうちに日本へ引き上げる事となりました。

住んでいた所が満州飛行機の社宅でありロシア軍の侵入と同時に父は何処かへ行ってしまい母は頭を丸坊



主にして顔に墨を塗り男性に見える様にカモフラージュをしておりました。そして社宅にロスケが来ると言う情報が入りますと産まれたばかりの弟を連れ1年生の私と4歳になる妹を残し逃げ惑っていました。同時のロスケはマンドリンと言う機関銃を持ち土足で各家庭に入り込み金目の物や時計等、全て持ち去って行きました。

私と妹は部屋の隅でじっとしていると何かロシア語で私達に話しをし、家中を引っかき回して出て行きました。その時の私が見たロスケは両腕に時計を十個位ずつはめていました。しかし私達、子供は危害を加えられず母の帰りをじっと待っていました。夜になると母が、弟を負担ってどこからとも無く帰って来て電気を点ける事無く真つ暗な部屋で声も立てずに食事をした事を思い出します。

そんな不安な毎日を1ヶ月もしたでしょうか何処からとも無く父が帰ってきました。私の家族は、幸いにも父と一緒に避難する事が出来たので一応食べる事には他の家族より少しは恵まれていました。そして1家5人で韓国のコソ島への旅が始まるのです。

そして平壤へと北朝鮮で最大の満州避難民を受け入れる都市となった平壤は日本人約2万2千人が当初は学校等の公共施設に收容されたそうです。

しかしロシア軍が進駐すると退去を命じられ避難民



は民家や旧遊郭などに移住されたそうです。私達一家は、満州から平壤に避難する時期が一番遅く、いきなり小さな部屋が沢山ある家に住んだ記憶があります。おそらく遊郭の一部屋だと思います。

何処をどう歩き、何処かの貨物列車の荷台に乗り野宿をしたり、そして人の良い満人・朝鮮人の家族が居る家に1週間程泊めて頂き、父や母は、その家の手伝いをしながら旅を続けました。当時、父や母はどの位のお金や宝石を持っていたのか私には分かりませんが、それらを与えてはコロ島の旅を続けたと思います。途中途中でロスケに殺された日本人や生活に疲れ果てた日本人や子供達の死を嫌と言う程見ながらの旅でした。

当時の旅の格好は、父は大きなリュックを前後に背負い母は少し小さめのリュックを前に背中には1歳の弟を背負い、私はランドセルより少し大きめの布カバンを背負い4歳の妹の手を引き父と母に死んでも手を離すなどと言われて 歩き続けました。

その妹は何故かアルミの洗面器とオマルを背負っていました。そして、今でも何処か分かりませんが、コロ島への道の途中、1年位生活をした事を覚えております。

父は何処かへ働きに行き、母は私達の面倒を見ながら同じ様な暮らしをしている日本人同士、何かの会合や今後の事を話し合っていたのだと思います。

そしてようやくコロ島の埠頭にたどり着く事が出来ました。その埠頭には、大きな貨物船が岸壁につけられ引き揚げる日本人が何千人と列を作り乗船を待っていました。

それが引き揚げ船、幸運丸でした。5日位、並んでいると、ようやく私達家族も乗船する事が出来ましたが、何せ貨物船ですので畳や毛布がある訳では無く、板の間の上に一家と他の家族とが雑魚寝をする状況でした。乗船してから3日目によく、日本の舞鶴の岸壁に付く事が出来ました。船の中の食事は カンパンと鮭の入った味噌汁でした。



ようやく下船する事が出来ましたが、岸壁に下りた瞬間全員が、素っ裸になり頭からお尻まで有機塩素系の殺虫剤・農薬のDDTをかけられた嫌な思いがあります。

ここまでが私が生まれ、1年生で終戦になり昭和22年8月に舞鶴港に引き揚げて来た実話であります。

この続きは又、来週お話をさせていただきます。暑い中、しめっぽい話して申し訳ありません。ありがとうございました。

何故、中国と韓国は日本に対して見返りを求めるのでしょうか……。米国は、広島・長崎に原子爆弾を落とし

て何万人の人達を殺しています。そして、東京空襲では10万人の人達が、空爆によって殺されています。しかし現在、日本は米国に対して余り文句を言っていないのは、中国や韓国に比べると不思議で仕方有りません。

## ロータリーの歴史 (2)

### 奉仕概念の誕生

1905年2月23日、ポール・ハリスは、最初の会合で一つの職種から1人だけ会員を選ぶという「一業一会員制の原則」を決め、次いで、3月23日、シカゴ・クラブの創立総会において、「規則的例会出席の原則」を採択しました。これらは何れもクラブの親睦を守るための基本原則でありますから、この時点では親睦だけのロータリーでした。

ところが1906年春、ドナルド・カーターの事件が起こりました。ドナルド・カーターの職業は特許専門の弁護士でした。シカゴ・クラブ二代目会長アルバート・ホワイトの時、フレデリック・ツイードがドナルド・カーターにクラブへの入会を勧誘したところ、ドナルド・カーターはクラブの互惠主義の説明を聞いて、「君達はお互いに助け合って、豊かになって楽しいだろう。しかし、一業一会員制の原則であれば、クラブに入れない同業者は一体どうなるのか。また、職業人の集まりであれば、職業を持たない一般地域社会の人達は一体どうなるのか。私達は、この地域社会に生まれ、地域社会に育てられ、地域社会にお世話になって暮らしている。このお世話になった地域社会に何らの恩返しもしない。何らの足跡も残さないで、自分達だけが助け合って隆々と栄えて、やがてこの世を去っていく。そのようなエゴイズムの団体は永続性がないだろう。自分は、二度とない人生を、そのようなエゴイズムの世界におくことはできない」と言って入会を断ったのです。

これを聞いて、痛く反省したのがポール・ハリスでした。「カーターの言うとおりの。クラブの行き方を変えよう」と言って、職業人の親睦のエネルギーを世のため人のために使おうと考えるに至ったのです。

実は、このドナルド・カーターの忠告から出てくるポール・ハリスの反省が、ロータリーにおける奉仕概念の誕生へと繋がるのです。と同時に、それは、ロータリー拡大の系譜の始まりでもありました。何故なら、ロータリーが親睦だけの仲良しクラブであれば、それはシカゴにだけあれば充分であって他に作る必要はないのです。しかし、世のため人のための奉仕を目的とするクラブであるならば、シカゴだけでなく全米の地域社会にあって然るべきものと謂うロータリー拡大の理念が出てくるからであります。

参考文献:

ロータリー歴史探訪 田中毅

<http://genryu.org/tanaka/general/150502jp.pdf>

2012-13年度 第2550地区 IIM 講演「初期ロータリーの歴史」RI第2680地区 深川純一パストガバナー